

Vol.79

石狩開発 株式会社

ISHIKARI DEVELOPMENT CO. LTD

編集発行/営業推進部

北海道石狩市新港西 1-721-11

TEL 0133(72)2300 FAX 0133(72)4055

http://www.ishikari-dev.co.jp

# 石・狩・湾・新・港・地・域 SAPPORT NEWS

●産業拠点● SYNERGY = SAPPORO × PORT × INDUSTRY

## 大型物流施設が続々と、 拠点化が更に進む！

石狩湾新港地域では、近年、新たな企業進出が一段と活発になっていきました。特に物流関連施設の新社設と、進出企業の業績・業容拡大に伴う施設の増設が多数行われています。

本記事では、とりわけ最近進出が目立つ大型物流施設について、令和元年度以降の主要企業の動きをまとめてみました。

### 大型物流センターが 次々と操業を開始

石狩湾新港地域では現在続々と大型物流センターの開業・開設準備が進められています。

### ニトリ石狩DC

新港南2丁目の10万4000㎡を超える広大な敷地に、新たな物流拠点である、「石狩DC」の操業開始に向けた、準備が進められています。

新型コロナウイルス感染症の影響によるネット通販等での個人消費が増加し、札幌に近いというアドバンテージをもつ石狩湾新港地域への大型の物流センターの進出が進んでいます。

同センターは延床面積約7万6000㎡の大型物流センターで、ニトリホールディングスが進める国内物流拠点の再構築の第1歩目となる施設です。

これまで同社の道内での



▲開業に向けた準備が進む「ニトリ石狩DC」



▲イオン石狩PC



▲大槻食材錢函物流センター

### イオンPC

小売業大手イオン(株)のグループ企業である、イオン北海道(株)は2021年8月から石狩市新港南2丁目イオン石狩PC(フロセスセンター)の稼働を開始しました。

同センターは、約12万1000㎡の敷地に延床面積約2万7000㎡を有する大型物流センターで、センター内

では低温物流センターの他に畜産、デリカ・惣菜の加工等の商品製造を行うプロセスセンターが併設されています。

センター内には様々な最新のマテリアルハンドリング機器等が導入され、自動化・効率化が図られており、同センターからは札幌市及び近郊のイオン・イオンスーパーセンター・マックスバリュへ商品の供給が行われています。

### 大槻食材 錢函物流センター

函館市に本社を構える業務用食品卸の大槻食材(株)は小樽市錢函5丁目新たに「錢函物流センター」を竣工させ、7月4日に施設の公開を行いました。

同センターは約4万9000㎡の敷地に2階建て延床面積約92000㎡の3温度帯(冷凍・冷蔵・常温)に対応した物流施設で、商品顧客別に自動で仕分けるなどの最新のマテリアルハンドリング機器が導入され、省人化・業務の効率化が図られています。

同日は落成式・内覧会が開かれ、来賓や取引先企業等の多数の見学者が訪れました。施設の本格稼働は令和5年春頃となる予定です。

### 物流以外にも大型施設が続々と

石狩湾新港地域内ではその他にもここ数年の間に大型施設が稼働を開始しています。(株)アイアイエーの第2物流センターA棟、(株)マテックの鉄スクラップなどの破砕処理を行うシュレック・プラントを設置した石狩新港事業所、日産産業運輸(株)の3温度帯対応の石狩第2物流センター等がすでに地域内で稼働を開始しています。

また、現在UDトラックス北海道(株)の札幌西支店の移転工事と(株)ヨドバシカメラの大型物流センターの立地が見込まれています。

100%再エネ  
データセンター  
事業計画始動!!

### 総務省補助事業に採択

北海道は冷涼な気候や地震・台風などの災害リスクの低さを理由に、首都圏に集中するデータセンター(以下、DC)の分散地として注目されていますが、2011年にはさくらインターネット(株)が道内初の郊外型DCを当該地域で稼働したのをはじめ、石狩市では、脱炭素社会に向けた取り組みとして、地域内の一部エリアにおける全ての電力需要を再生可能エネルギーで賄う「REゾーン」の実現を目指すなかで当該地域へのDC誘致に向けた動きが活発に進められています。

今般、REゾーン内で環境配慮型のDCを計画する合同会社石狩再エネデータセンター第1号が総務省よりDCの整備補助対象者に道内で唯一採択されました。

今回の補助事業は、令和3年度の補正予算で総務省が実施する「データセンター、海底ケーブル等の地方分散によるデジタルインフラ強化事業」で、DC、海底ケーブル、インターネットエクスチェンジ(IX)等のデジタルインフラの地方立地を支援する事業であり、デジタルインフラ整備基金(特定電気通信施設等整備推進基金)を設置し、同基金を財源としてデジタルインフラ整備を行う民間事業者等に対して助成を行うものです。

同社はDC建設の着工を2023年度内に予定し、施設の規模は敷地面積約2万8000㎡、延床面積1万㎡、1500ラック程度を見込んでおり、道内でITサービスを展開する事業者に貸し出す計画とのこと。

本整備補助では石狩市のほかヤフー(株)による福島県白河市、NTTグローバルデータセンター(株)による京都府相良郡での計画など計7事業が採択され、補助総額は200億円となっています。



▲DC内のサーバールーム(イメージ)



▲リニューアルした札幌北支店

札幌北支店のリニューアルにより、製造拠点や物流拠点多く立地し、産業用車両が多数走行する石狩湾新港地域の更なる利便性の向上が見込まれます。

札幌北支店は新たに取得した用地を含め約1万2000㎡の広大な敷地に、約5200㎡の工場を併設しており、作業の効率化や安全面・衛生面での環境改善、整備生産性の向上

2台作業が可能です。安全対策としてはフロアリフトなどの開口部への転落を防ぐ落下防止カバーや、リフト上昇時に工場の床面とリフトの間に足や物が挟まれないよう、赤外線によるリフトの自動停止装置を設置し、安全な職場づくりができるよう環境整備が行われており、またバイオ式工場排水処理装置を導入するなど環境へも配慮されています。

また、設備面では全部で13本のレーンを備え、2柱リフトやフロアリフト、連結した大型トレーラーのリフトアップやタンDEMレーンとしても使用できる4柱リフトを3本導入しており、小型トラックへの対応も強化されています。塗装レーンは全長28mと道内最大級、大型車も同時に

# 北海道日野自動車 札幌北支店をリニューアル

平成3年から石狩市新港西1丁目にて操業している北海道日野自動車(株)(代表取締役社長 藤田 義治)は敷地の拡張とともに工場をリニューアルし、7月1日より全面稼働を開始しました。

を図り、トータルサポート体制が強化されています。

# 令和5年度、 分譲開始へ向け 造成工事を行っています

石狩開発(株)は、令和5年4月からの新たな分譲用地の販売開始を目指して、2か所合計約21万㎡の造成工事を進めています。

現在、造成工事を進めている分譲用地は、令和4年度より販売を開始し、多くの企業様にご進出を頂いている銭函4丁目区画の隣接地で、札幌市手稲区、西区・北区を横断し、札幌市中心部を結ぶ、新川通(道々125号前田新川線)から約1.2kmの距離に近接する約4万㎡(右下写真参照)と、国道337号線に面し、コストコホールセール石狩倉庫店・スーパーホテル石狩に近接する石狩市新港南2丁目の約17万㎡(左下写真参照)です。

新たな分譲対象用地が増えることにより石狩湾新港地域への企業集積が一層高まることが期待されます。

お問い合わせ先…  
石狩開発(株) 営業  
推進部 TEL 013-317212300



▲石狩市新港南2丁目造成用地 (約17万㎡)



▲小樽市銭函4丁目造成用地 (約4万㎡)

## ◆ 企 業 紹 介 ◆



外壁総合メーカー

# 株式会社 FUJI ジャパン

## 石狩工場 TEL 0133-77-7185

(株)FUJIジャパン(本社:札幌市中央区 代表取締役 佐々木 忠幸)は令和4年5月に石狩市新港中央3丁目の所有地に石狩工場を竣工させ、稼働を開始しました。

同社は自社開発・自社販売・自社施工を行う「外壁総合メーカー」で、耐久性・断熱性に優れ、意匠性が高い同社オリジナルの「外壁材」・「塗り壁材」の製造・販売・卸・施工を中心に事業を展開しています。

竣工した石狩工場ではタイルと金属サイディングが一体化した新商品のタイルパネルを製造しており、北海道はもとより、全国各地へ出荷されています。



▲石狩工場



信頼と実績の物流パートナー

# 八潮運輸株式会社

## 札幌支店 TEL 0133-72-7570

石狩市新港西3丁目で物流センターを構える八潮運輸(株)(本社:北斗市 代表取締役 小滝 博一)は平成16年から石狩湾新港地域で操業を続ける業歴40年以上を誇る総合物流企業です。同社では札幌~函館の都市間輸送を中心に、全道各地へ物流網を構築しており、3温度帯に対応した運送事業を手掛け、薬品から食品・家具・家電等様々な荷物の運搬を行っています。

また、北斗市、札幌市白石区、石狩市新港南2丁目に倉庫を構えお客様のニーズに幅広く対応した保管業務を行っています。

令和4年5月には新たな倉庫を同じ石狩市新港西2丁目内に完成させ、操業を開始しており、更なる業績の拡大が期待されます。



▲石狩物流センター